

平成28年度取組状況

ものづくり工学科 電子情報工学コース

教授

山口知子

取組状況	
教育	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度に担当した、電気回路II、電磁気学基礎、電磁気学II、レーザー物性特論の学生配布用の資料を毎回の授業で配布した。作成した理由は、電磁気学では市販されている本は高専生には難しすぎたり、説明が不正確だったりしたためである。また、レーザー物性特論は適切な教科書がなかったからである。配布資料の明確さでは、学生から高い評価を得た。しかし、反面ノートを取ることの大切さを忘れた学生も出てしまった。 教科書的な配布資料を通年で作成したが、まだ不足、冗長な部分があるため、来年度一年をかけて改訂を行ないたい。 卒業研究では、3人の学生を指導したが、一名を除いて当初計画していたレベルまで指導することが出来なかった。学生の資質もさることながら、指導の難しさを痛感した。
研究	<ul style="list-style-type: none"> 研究成果は、当初の計画通りすすみ、日本物理学会では9月金沢大学、3月大阪大学で発表が出来た。また、12月には富山大学で開催された原子衝突学会に参加し、原子衝突の最近の話題に触れることが出来た。 “低速多価イオンと希ガス二量体の衝突における多重電離立体力学IV”, 2016. 9. 14, 日本物理学会2016秋季大会, 金沢大学 “低速多価イオンと希ガス二量体の衝突における多重電離立体力学V”, 2017. 3. 19, 日本物理学会第72回年次大会, 大阪大学 首都大学東京の物理に編入学した2名の学生の研究成果を原子衝突学会において聞く機会を得、高専においても若手研究者の育成の一翼を担えていることが分かった。
社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年12月12日(月)世田谷区立瀬田中学校校出前授業「宇宙創造と元素誕生、生命の誕生」を行い、地域貢献に資することができた。 原子衝突学会会計監査を務めることで、我が国における原子衝突研究の発展の一助となった。